

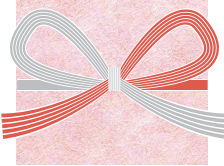
郷土研究 伊丹公論

ことば蔵 10周年 記念号

復刊 第31号 通巻50号 年3回発行

発行所 伊丹市立図書館ことば蔵
〒664-0895 伊丹市宮ノ前3-17-14
編集 伊丹公論編集委員会
072-784-8170

「ことば蔵」開館10周年 市民とともに歩む図書館がここに



7月1日、市立図書館本館「ことば蔵」が開館10周年を迎えた。平成24年、宮ノ前に移転した本館ことば蔵の誕生から10年の歩みを振り返る。

宮ノ前に息づく学びの場

その昔には、酒造の中心であった伊丹郷町は、文人墨客が集い、俳諧をたしなみ、文化の薫りの高い町としても栄えた。

人が学び、交流する場

伊丹郷町の一角、宮ノ前の地で平成24年7月1日に開館した。

ことば蔵は、誰もが気軽に訪れることができる「公園のような図書館」をコンセプトとして誕生した。図書館機能に加えて、情報発信機能、交流機能を持つ。開館時には、名誉館長である田辺聖子さんから、読書と言葉の楽しさ、大切さについてのメッセージをいただいた。

田辺さんは残念ながら令和元年6月に逝去されたが、偉大な先人の思いを引き継ぎ、生涯に渡る学びの場、人を育てる場、そしてまちの活性化につながる新しい集いの場として10年を歩んだ。これまで350万人を超える方が来館し、千700回を超える交流イベントを実施してきた。

運営会議(詳細は、2面を参照)において、市民を中心とし、学校や企業とも連携しながら多様な事業を生みだしてきたことが評価され、平成28年、「Library of the Year 2016大賞」を受賞。この賞は、先進的な活動を行っている図書館に対して毎年贈られる賞だ。運営会議から生まれたイベントの中には、定期的に開催される部活動となった「ビブリオバトル」「zineワークショップ」「カエボン部」「いたみアーカイブ」「いたみ文芸ことそうし」がある。

当館は、読書を通じて知的好奇心を高める場であり、人と人との交流が生まれる場でもある。毎月開催している「交流フロア

これまでの受賞歴

関心を広めた点が評価された。図書館がプッチリニユアル



ことば蔵で活動する皆さん11階交流フロア

本年、ことば蔵が開館10周年を迎えました。

平成24年7月1日に執り行いました開館記念式典において、故田辺聖子名誉館長より読書と言葉の楽しさ、大切さについてのお言葉を頂いたことが、昨日のことのように思い出されます。ことば蔵は、「公園のような



伊丹市長 藤原 保幸

市長あいさつ

図書館」をコンセプトに、20万人都市にふさわしい今日的な図書館機能、人と人がふれあい、語り合い、学べる交流機能、「伊丹郷町」の歴史・文化を発信・体感できる機能の3つの機能を基本として、これまでに延べ350万人を超える方々にご来館いた

自由な発想の賜物であると感謝の念に堪えません。今後も、ことば蔵が市民の皆さんの生涯にわたる学びの場・人を育てる場として機能し、伊丹のまちの更なる活性化に資する、魅力ある図書館となることを目指してまいりますので、皆様どうぞご期待ください。



伊丹市 教育長 木下 誠

教育長あいさつ

ことば蔵が開館10周年を迎えました。「公園のような図書館」の実現に向け、ことば蔵を活用し、学び、集っていただいた多くの市民の皆さまには感謝の気持ちでいっぱいです。

ことば蔵は、子どもから大人まで様々な年代の人が、知識や探究を深めるとともに、その学

ればなりません。これからも、ことば蔵が、多くの人が集い、楽しみながら学べる拠点施設として末永く市民に愛されとともに、人づくりの場であり続けることを願っています。

～図書館の歩み～

- 明治45年：小林杖吉氏が私立図書館を宮ノ前に開設
- 昭和18年：同図書館閉館
- 昭和26年：市立図書館が伊丹相生町（現行基町）に開館
- 昭和47年：市立図書館が千僧に移転
- 平成24年：7月1日「ことば蔵」が宮ノ前に開館
- 平成26年：「子どもの読書活動優秀実践図書館」受賞
「マイクロ・ライブラリーアワード」受賞
- 平成28年：「Library of the Year 2016大賞」受賞
- 令和2年：調べる学習コンクール「総務大臣賞」受賞
- 令和4年：開館10周年

ビブリオバトル



開館前にことば蔵の交流フロアで何をするか考えるチームに入れて頂きました。その時、せっかく図書館で開催するならば、本に関わるイベントをしようとして当時流行り始めていたビブリオバトルを導入しました。

ビブリオバトルとは数人の発表者（バトル）がお気に入り、本の魅力を5分間で紹介し、観客の投票でチャンプ本が決まる知的書評合戦です。

普及委員会の吉野さんのお力添えを頂き、ことば蔵の部活動（ビブリオバトル部 村上 有紀子）

本を知り、人を知る

と本に感謝しています。図書館という開かれた場所でビブリオバトルを開催する事で、本を通して様々な人が出会い、新しい本を知るきっかけになります。部員も随時募集中です。興味を持った方、まずは見に来て下さい。きっと次はあなたが発表しなくなりますよ！

（ビブリオバトル部 村上 有紀子）

交流フロア運営会議



誰でも参加自由な「交流フロア運営会議」は、自分がやってみたいことを持ち寄り、参加者と意見を交わし、アイデアを出し合いながら、どのように実現していくかを考える場です。

企画するイベントのテーマは自由で、交流フロアというオープンな場所で開催でき、読書や「ことば」に関連するものを目指しています。

企画から実現までは、「①運営会議で企画書をもとに発案、参加者からの前向きなアイデアを取り入れ、より魅力的な企画に②実施に向けて内容等を打合せ、チラシを作成③イベントの実施④翌月の運営会議で報告。」という流れとなります。

会議での顔ぶれはその時々で変わりますが、10代から幅広い年齢の方々が集まり、毎回15名程度が参加されています。ざっくりと楽しんで雰囲気豊かな新たな企画が次々に事業へと生まれ変わります。

アイデアを気軽に実現

何かやってみたいこと、知ってもらいたいことがある方は、ぜひ会議にご参加ください。参加するだけでも楽しめますよ。

【運営会議】毎月第1水曜日の18時30分から、当館1階の交流フロアで

ことば蔵を支える多彩な活動

市民が主役の図書館

本紙の2・3面では、ことば蔵を支えてきたボランティアや部活動などの方々に開館10周年を迎えるにあたっての思いや活動内容、イベントの魅力を語っていただいた。

交流フロア運営会議の誕生

平成24年7月、ことば蔵が開館するにあたり、図書館機能に

ボランティアの皆さん

ことば蔵は、おはなし会での

「公園のような図書館」というコンセプトのもと「ことば蔵」という名称で移転オープンしてから10年。「酒と文化の薫るま

zine ワークショップ



に友人と出向いたことはとても思い出深いです。市民企画として開館当初から行ってきたzineのワークショップも子どもから高齢の方まで幅広い世代の方々に参加いただき、zineとは、雑誌のマガジンや同人誌の呼び

「私」の世界が広がる

zine、ことば蔵

ツールであることが大きな特長です。そのようなzineを図書館で作る、作ったzineが図書館に並ぶ、自分の知らない人が読んでくれるといったことがとても有意義だと思っています。本との出会いだけではなく、「世界で一冊だけの私の本」を作る、作ったzineを通して交流が生まれる、「私」だけの世界で終わるのではなく「私」の世界が広がる、そんな色々な可能性を感じられるのがzine、そして「ことば蔵」の魅力です。

（企画制作業 鹿嶋 孝子）

加えて、1階に大きなフリースペースを設け、人と人がふれあい・語り合い・学ぶことのできる交流機能が新しく備わった。

読み聞かせやおたのしみ会での人形劇、視覚に障がいのある方向けの対面朗読・音訳・点訳、図書修理など様々なボランティアの皆さんの力によって成り立っている。図書館が宮ノ前に移転する前から、40年近く図書館運営をサポートしているグループも多い。

おはなし会は、様々な年齢を対象としており、英語や大人向けのおはなし会も開催している。日時や対象年齢等の詳細は毎月の「ぎょうじあんない」に掲載。

また、修理ボランティアや、音訳、点訳のボランティアの活動は、より多くの人が読書を楽しめる図書館であり続けるための支えとなっている。

各ボランティア、部活動についてのお問い合わせはことば蔵まで。

代表 ☎ 072・783・2775
交流事業・貸室 ☎ 072・784・8170

グループ「声」



音訳ボランティア「グループ声」は、旧図書館から活動を初めて50年ほどになります。私たちは、視覚障がい者の方々に「声の歳時記」という、新聞等から季節の話題や小説等を選び、音訳した90分ほどのCD

より聞きやすい

ものを届けたい

感じましたが、最後までやり通せたことは、とても勉強になりました。

これを機にさらに力をつけることの大切さを知り、積極的に勉強会を開いて学んでいます。声の歳時記・広報伊丹をより聞きやすいものにしていきます。乞う期待！

（グループ声代表 満田 順子）

おはなしかご



「おはなしかご」は、幼児の読み聞かせグループとして昭和53年に発足し、旧図書館で活動していました。ことば蔵に移り、早や10年を迎えました。

絵本は大人も子どもも心に残る

色々検討し、話し合って決めて練習をします。その過程も楽しいですが、子どもたちが、お話を楽しく聞いている姿を見ることが嬉しです。

ことば蔵は、幼児から大人まで、様々な催しができる場として、これからも発展し続けていくことを願っています。

（おはなしかご 松林 和子）

蔵出しニュース

図書館公募イベント
受賞者決まる

しおりんピック

ことば蔵はこのほど、本のし

おりの出来栄を競う「第8回
しおりんピック」の金メダルに、
兵庫県神戸市の高橋彩さん
(41)を選んだ。全国から269点
の応募があり、画家で市芸術家
協会代表幹事の北里桂一さんの

審査により金・銀・銅メダルが、
来館者による投票でことば蔵賞
が選ばれた。

金メダルを受賞した高橋さん
は「水彩画を描いたのが小学校
以来だったのですが、こんな賞
をいただけるとは思いません
でした。また来年も応募した
いと思います。ありがとうございます。」と喜び
を語った。

ことば蔵賞を受
賞した東京都八王

子市の久保聡美さ
んは「数多くの素
敵な作品のなかで、

ことば蔵賞に選ん
でいただけたこと
を本当にうれしく
思います。しおり

んピックというイ
ベントを通して、
たくさんの方サイ
ンとともに、伊丹
市や図書館ことば

蔵についても知る
ことができたので
良かったです。オ
ンラインで表彰式
に参加できる機会
も設けてくださっ

て、ありがとうございます。」
と話してくれた。

他の入賞者は次のとおり。

▽銀メダルⅡ東京都江東区の田
中さん▽銅メダルⅡ埼玉県川越
市の木下重美さん

帯ワングランプリ

自作の「本の帯」の出来栄え
を競う「第9回帯ワングランプ

リ」の伊丹本屋大賞に、伊丹市
の稲垣紗良さん(松崎中3年)、
喜多桜太さん(松崎中1年)、
江口尚子さん、東京都江戸川区

のいけがみたいぞうさん(48)
の作品を選んだ。また、来館者
の投票で決定することば蔵賞に
は、伊丹市の榎本瑛雄さん(松
崎中3年)が選ばれた。

帯ワングランプリには全国か
ら461点の応募があり、伊丹本屋
大賞を受賞した稲垣さんは「中
学3年のときに作った作品で、
夏っぽさを表現しました。受賞
できてうれしいです。」と話し
てくれた。

※各受賞者の年齢は応募当時の
もの。

伊丹歌壇

最優秀賞

必要な人材ぢやないわたくしは

透きとほりつつ定時で上がる

芍薬(千葉県千葉市)

切ない心情や、繊細な感覚も素敵だが「定時で上がる」の言
い切りが良い。定時で上がった後「人材」ではなく一人の人間
として、例えば趣味などを楽しんでいる姿が見えて来てなんだ
かホッとする。

優秀賞

仕事欄に「無職」と書けば居心地がわるく「なし」とすなしが仕事だ

まるで薔薇園仕事中毒の症状 Flower flies like life.

(ハナアブ科は生命を好む)人生のように花は飛ぶ)

野上 卓(東京都世田谷区)

ホワイトカラー何でも合わせられるから今日は好み焼き定食で

菅澤 真央(神戸市)

難破船傾斜角度は四十度現場調査の海は大時化

藤田 晋一(宝塚市)

一日の仕事を終えて空見上ぐこの安堵感兵士たちにも

知地 一代(神戸市)

伊丹俳壇

最優秀賞

噴水の水は光に濡れている

井上 鈴野(東京都東大和市)

「光に濡れてゐる」という見方がとってもよい。しかもその事
だけを言ったシンプルな表現も。噴水のそばに立ったら人も濡
れそう。

優秀賞

噴水のなかで時間が惑乱す

噴水や北東に恐竜の骨

噴水へ子らを放ちて小半日

噴水の広場の犬のつつましき

噴水や実はわたくし魔女だった

平 きみえ(伊丹市)

野上 卓(東京都世田谷区)

睦月くらげ(埼玉県新座市)

伊賀 豊子(川西市)

堺 紀彦(滋賀県高島市)

次回の兼題は、俳壇は「秋刀魚」、歌壇は「遊園地」

とします。応募は1人各1作品、自作未発表作品

に限る。応募締切は8月15日(必着)。最優秀賞に

は図書券千円を進呈。下のQRコードを利用する

と、スマートフォンからも応募できる。問い合わせ

せは、ことば蔵へ。

編集委員、募集！

あなたも本紙を
作ってみませんか？

ことば蔵では本紙創刊者であ
る小林杖吉氏の遺志を引継ぎ、
郷土研究「伊丹公論」を市民と
の手作りで復刊させ、今号が第
31号(通巻第50号)となります。
掲載する記事は伊丹の郷土・歴
史・文化に関するトピックスや、
話題の人やお店等を掲載してい
ます。

取材から、原稿の執筆や紙面
の編集を市民の皆さんと考えな
がら楽しい雰囲気の中、紙面を
一緒に作ります。読者の皆様も、
良かったら一緒に本紙を作っ
てみませんか？

【伊丹公論編集会議】

月に一度、火曜日の18時30分
から、当館1階の交流フロアで

しおりんピック受賞作品 金メダル(左)
銀メダル(上) 銅メダル(右) ことば蔵賞(下)



しおりんピック受賞作品 金メダル(左)
銀メダル(上) 銅メダル(右) ことば蔵賞(下)

しおりんピック受賞作品 金メダル(左)
銀メダル(上) 銅メダル(右) ことば蔵賞(下)

ことば蔵10周年に寄せて
～これからもずっとずっと～



林やよい

伊丹市在住。毎日新聞兵庫版にイラスト
エッセイ「くるまのまい」連載中。
本紙「伊丹公論」では復刊第1号から連載中。